

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 5月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シンガポール国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
( )1.研究職 ( )2.専門職(医師・法曹・会計士等) (○)3.公務員 ( )4.非営利団体 ( )5.民間企業(業界: ) ( )6.起業 ( )7.その他( )			

派遣先大学の概要

シンガポールの国立大学であり、アジアでも最高レベルの評価の大学。学生や講師陣の多様性に長けており、全世界から優秀な人材が集まり常に知の摩擦が体现されている。例えば、海外からの留学生が学部で1000人規模で常に在籍し、2学期分の授業を受けるなかで出会った講師のバックグラウンドは中国・台湾・韓国・トルコ・シンガポール・インド・アメリカ・シンガポールというように非常に多様なものであった。また、シンガポールの教育投資の規模の大きさを反映し、学生が学問に集中出来る場所が環境的・財政的に整っている。そのため、海外・国内を問わず優秀な学生が奨学金を通じてこの大学に集まっている。施設的には、24時間利用可能な学習スペースや大学に隣接する大学寮群など生活面も含め大学が学生をサポートすることに成功している。

留学した動機

私が留学した動機は、学部1-2年生の間に参加した多数の国際交流プログラムにおいて、海外の学生の積極的な外向き思考に刺激され、日本にとどまりつづけることに将来的な危機感を覚えたことであった。また、あらゆる場所において、シンガポール国立大の評判を耳にし、グローバル世界のハブたるシンガポールで充実した教育環境と多様性のなかに身を置くことを決意した。また、国際政治を勉強してきたため、東アジアや南アジア、東南アジアといった幅ひろい地域の地域政治から学んで学問的基礎を拡充しようという意図もあった。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	8月~		2016年	4月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部5	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		44	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		14 単位		
	留学後の取得(予定)単位		26 単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		11ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

まずは、先輩や周囲が留学する時期として3年夏からが最も一般的であったため。また、その理由として、卒業を一年伸ばすことで卒論や就活にも余裕をもってとりこむことが出来るという見通しが容易に立てることが出来たから。さらに、確実に留学するという事を考えようと、4年で選考から漏れて参加出来ないといったことがあるよりは、3年から申請することである意味二回チャンスを持つことが出来ると思ったから。

## 留学の準備

### ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学手続きに関しては、比較的遅い時期にならなければNUSから連絡がないが、その先は非常にシステムとして確立された手順があるので特に迷うことはなかった。ただ、寮を選ぶときに、選択肢がある場合とない場合があるなどやや不明な点もあった。寮選びは留学生生活を大きく左右するため、帰国した学生からよく話をきく必要がある。また、TF Learn Programmeは各国の優秀な学生と交流することができ、更に奨学金も頂けるという非常にありがたいプログラムだが、その申請までの期間がかなり限られており、そのなかで膨大な資料と書類を回収・処理しなければならないので申請する場合は1ヶ月はしっかりと見る必要があるので非常に注意が必要。

### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは基本的には現地大学についてから申請手続きが行われる。大学が指定した日付に大学で手続きを行うことが出来れば、特に迷うこともなく手続きを終えることができる。ただ、その日までに現地にいることが出来なければ、現地の役所にて申請することになり1日まるまるかかるほど時間を取られてしまうので、その日に現地にいることが強く勧められる。また、エイズのチェックが義務とされているため、出国前に余裕を持って英語での証明書を取得する必要がある。これは東大内の施設のもので全く問題なかった。

### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

シンガポール国内に滞在する分には非常に清潔感があり医療もしっかりした国であるので、特に心配はない。その一方でデング熱の予防は念のため行ったほうがいい。また、学生同士で東南アジアや南アジアへ旅行する人が非常に多いので、そこまでを見越した予防接種を行っておくことが勧められる。

### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校で指定された保険に加入した。しかし、日系の病院しか保険の指定病院となっていないため実際に現地で病院にかかるときには注意が必要。(大学から一番近い国立大学病院は含まれていない。)

### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。シンガポールで授業エッセイを書いたがメールで提出出来るため全く問題はなかった。

### ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

NUSではレポートを書く、大量の論文を読む、試験を解く、授業でディスカッションするという多様な能力が求められる。個人的には、行く直前にAdvanced ALESAという英語論文の書き方に焦点を当てた授業をとっていたことが非常に留学中の助けとなった。(英語論文を書くときは形式や段落内の構成も大切なため、その点について事前に学習し慣れておくことが勧められる。)

### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シンガポールではラップトップが壊れると学習面において多大な支障をきたすこととなる。その一方で、高額な買物は保証の関係からあまり好ましくない。そのため、ハードディスクだけ付け替えても無事に利用できるようにOSのリカバリーソフトを持って行くことが勧められる。基本的に日本にあるもので現地で調達できないものはほぼ無いのであまり気にしなくてもよい。

## 学習・研究について

### ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請

中国語レベル3	4 ●	Politics and Government of Singapore	4 ●
中国語レベル4	4 ●	Politics of the Middle East	4 ●
War in SouthEast Asia	4 ●		
Politics of South Asia	4 ●		
Public Administration in Asia	4 ●		
<b>②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)</b>			
<p>政治系の授業は基本的に一教科につき週に2-3本分の論文を読んでくる必要がある。チュートリアルの授業ではその内容と授業の内容についてディスカッションが行われる。評価方法はだいたい、中間試験・期末試験・中間レポート・期末レポート・チュートリアルでの貢献である。授業期間中はほとんどの時間が論文を読むことと書くことに使われると思ってよい。授業としては、シンガポール政治を学べるのは世界でここだけなので、日本政治に対する示唆に富んだシンガポール政治について学ぶことはおすすめする。その他の授業も、様々な国籍の専門家が授業をしてくれるので、様々な見方を知ることができる。</p>			
<b>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</b>			
<p>1学期は3教科、2学期は4教科とった。構成は1教科が語学、残りが政治分野。授業は週に1回の授業13回+隔週のチュートリアルが計5回ある。東大よりもコマ数自体は少ないぶん、一教科あたりの負担が重い。</p>			
<b>④学習・研究面でのアドバイス</b>			
<p>期末試験前に論文をいかに消化することができるかがものをいうため、コンスタントに論文を読み続けることが必要。読まれる論文の量が膨大であるため、あとから見返してすぐに内容を思い出すことができるような工夫を論文を読む際に行っておくとテスト前に楽。レポートはだいたい1500-3000 wordsだが、まれに4000 wordsのものもあるので注意が必要。とにかく、時間が無いなかで論文を描き上げなければならないので、どの先行研究を読むかを効果的に選定しなければならない。政治系であれば、理論の論文と事例の論文の両方をバランスよく読むことが必要。個人的には、はじめのうちは論文を消化することに苦労した。また、論文執筆のために時間をとりすぎてしまったため、期末試験の準備がおろそかになってしまって点が反省点。</p>			
<b>⑤語学面での苦労・アドバイス等</b>			
<p>Singlish(シンガポール英語)はなれるまでに半年かかった。最初はわからなくてもショックを受ける必要はないと思う。語学を伸ばそうとしたら、まず現地の日本人と会う機会を出来るだけ制限すること、そして、図書館にこもって論文を読むことに時間を使いすぎず、友達を作ってその友達と過ごす時間を出来るだけ長くしてよりたくさん話すという姿勢を持つことが肝心。とにかく、はじめは現地人と一緒にいることがおっくうになってしまうかもしれないが(Singlishが理解不能すぎて)、クラブ活動などを通してそこを乗り越れば10ヶ月後にはシンガポールなまりの英語力が上達すると思う。</p>			
<b>生活について</b>			
<b>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</b>			
<p>U townにある大学寮の一つRC4に住んだ。家賃は700ドル/月で朝と夜の食事付き。エアコンは別で支払う。エアコンがないと夜が非常に寝苦しい(特にヘイズの11月ころは窓を開けられない)のでエアコンがある部屋を選択することを勧める。6人でひとつのスイートルームをシェアするか個室かがあるが、友達を作るためにも6人の方を強く勧める。また、ハウスという制度があり、そこが主に現地の友達を作る場にもなるので、積極的にイベントに参加することを勧める。</p>			
<b>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</b>			
<p>10-12月にかけてヘイズ(インドネシアから流れてくる大気汚染)が酷いので、その時期は窓もあけることが出来ない。食事・交通は日本と比べるとかなり安い。その部分に関して困ることはおそらく無いと思う。また、お金はデビットカードでATMから引き落とししていた。携帯はSIMカードを買って、月に30ドル程度払っていた。しかし、大学のwi-fiもかなりしっかりしているので、そんなに携帯に払う必要もないかもしれない。</p>			
<b>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</b>			
<p>治安なり医療に関しては東京と同じかそれ以上の水準。ただ、歯医者が保険でカバーされないなので、行く前に治療を受けておく必要がある。シンガポール人と会話することが最初はかなり難しいので、もう少し international Englishで話してとお願いするのもいいかもしれない。(実際彼らはそういう話し方も出来る)</p>			
<b>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</b>			

・毎月の生活費とその内訳
毎月の生活費は基本的には寮費と携帯料金、そしてたまに外食する程度であり出費は多くなかった。だいたい10万円の奨学金で賄うことができる。
・留学に要した費用総額とその内訳
おそらく、旅行の費用を抜けば10万*9ヶ月の90万で十分足りる。教科書代は教科によっては必要だがだいたいの教科は論文を印刷するのであまりお金はかからない。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
大学を通してFung Scholarshipを月に10万円頂いていた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
NUSのパレーボールクラブに所属した。また、寮のロッククライミングクラブやfrisbeeクラブ、キャプテンボールクラブなど様々な団体に所属した。しかし、遊びの延長といった程度なのでかなり気楽に参加できる。Inter-college gameに参加すると練習と試合を通して良い友達ができる。また、AEBSという国際学生団体でのシンガポールの学習プログラムを1週間分現地で企画実施した。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
寮に教授もいるので、教授と仲良くなると優しくサポートしてくれる。日本人も30人程度いるし精神的に大きな負担がかかるということもない。授業に関しては、日本のように「みんなの意見を聞いてみましょう」という感じではなく、積極的に発言していかなければ発言のチャンスが回ってこないので少し大変。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館の蔵書は素晴らしいので、ネットからダウンロードする論文だけでなく、興味のある本棚を手当たりしだいであさってみるといい使い方をすると思う。また、スポーツ施設やwi-fi環境、24時間利用可能な学習室など設備は充実している。
<b>留学と就職活動について</b>
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
シンガポールにいて比較をすることで、日本企業や日本経済・日本社会の特徴が主にネガティブな方向で見えてしまった。将来は日本を出て、より豊かな生活を送りたいと思う一方で、今の日本社会を立て直したいという気持ちも生まれるようになった。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- ( )1.研究職 ( )2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) ( )3.公的機関(機関名: )  
 ( )4.非営利団体(団体名又は分野: ) ( )5.民間企業(企業名又は業界: )  
 ( )6.起業(分野: ) ( )7.その他( )

**留学を振り返って**

**①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感**

留学の意義は日本を相対化して見る事が出来るようになるという点であった。特にシンガポールの場合は現実主義が強いため、ヨーロッパやアメリカをみるだけではわからないリベラルデモクラシーの非効率性について強く考えさせられるところがあった。個人としての成長としては、外国の自分に馴染が薄い地であってもベースを築いて有意義な活動を行う能力を身につけることが出来た。特に、AEBSという国際学生団体のシンガポールでのプログラムを企画した際には、本当に0ベースで仲間を集め、現地の社会人とネットワークを築き、資金を集め、という通りのプロセスを外国の地でも実施することが出来た。また、語学に関しても、はじめは評価の低かった論文も、最終的にはA評価を頂けるまでライティングの能力が伸びた。また、コミュニケーションもスムーズに行うことが出来るようになった。

**②留学後の予定**

夏学期の期間はLLICプログラムに参加して、中国でインターンを行う。また、その後は大学の授業をこなしながら、国内でインターンなどより社会に近い部分での活動をするつもりである。来年は就職活動(または、大学院進学)と卒論執筆を行う。

**③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

留学は行っただけで基礎能力が飛躍的に向上するというものではありません。一緒に留学した日本人学生の中にはいつも日本人同士でグループを作っていたり、結局最後に成果を言語化することが出来ないという人も大勢いました。その一方で、何か積極的に企画を立てたり、ネットワークづくりに様々なコミュニティに所属することで思わぬ部分の能力が成長したりということもあります。現地では勉強面はもちろん、課外活動に関してもエネルギーを使うことをためらわず、むしろ挑戦的なことに積極的に手を出して自分の可能性を広げることを常に念頭に置く生活をするとう良いと思います。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 5月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	交換留学	派遣先大学:	シンガポール国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="checkbox"/> 5.民間企業(業界: ) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他( )			

<b>派遣先大学の概要</b>					
シンガポール国立大学(National University of Singapore / 以下NUS)は1905年に設立された、シンガポールで最も歴史のある大学である。学生は100カ国以上から3万7千人在籍している。 QS World University Rankings® 2015/16では12位にランキングした。					
<b>留学した動機</b>					
自分自身、海外の学生との交流の経験は多かった。その時に、全く国際交流に興味のない人と自分は仲良くなることもできるのかと自分を試したくなり、留学を考えた。 英語と中国語のFluencyを高めたかったこと、多民族社会について実際に現地に住むことで体感したかったことがあり、シンガポール国立大学を選んだ。					
<b>留学の時期など</b>					
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	8月~	2016年	5月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	4月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		66単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		8単位		
	留学後の取得(予定)単位		16単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	4月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		9ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
1年間留学に行きたいと考えており、さらに4年で卒業する可能性も視野に入れていたため、3年次からの留学にした。					
<b>留学の準備</b>					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

4月にonline applicationの締切、6月に寮の選択があった。寮の選択については、人によって選択肢が異なるようである。  
 8月から1学期が始まるにも関わらず、最終受け入れ許可のメールが届いたのは6月25日と遅かった。そのメールに添付される形で、“Notes on what to do after being offered admission to NG Programme”という授業開始までの手続きの流れを記した文書が届いた。  
 なお、東大からの推薦をもらえれば、TF LEARN Programmeという奨学金プログラムに応募することができる。僕の時2月に東大から推薦するとのメールが届き、3月上旬にNUSから手続きについての詳細のメールが届いた。参加することは叶わなかったが、参加者からの話によれば、アジア各国の交換留学生の間で様々な交流の機会があるようである。推薦状など準備する書類が多いので、早めの準備が望ましい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは最終的にはStudent's Passという学生ビザを申請することになる。日本のパスポートを持っていれば、シンガポール入国の際には観光目的で入国すれば良い。  
 “Notes on what to do after being offered admission to NG Programme”にStudent's Passの申請方法が書いてあった。さらに、NUSからStudent's Pass申請についてのメールが別で届いた。SOLARシステムというものを通じて、6月下旬から7月上旬までに申請を終わらせることが求められていた。学期始まりのRegistrationの際にStudent's Passの最終手続きを行い、8月中旬にStudent's Passを受け取った。学期始まりのRegistrationを逃すと、ビザを管轄する当局までわざわざ行かなければならないこともあるので、注意したほうが良い。  
 Processing Fee: S\$30, Insurance Fee: S\$60, Visa: S\$30、合計S\$120だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

メガネを作り直した。ブランドにもよるが、シンガポールより日本で作るほうが安いようである。  
 海外留学保険で歯科治療が適用されないため、留学前に歯科検診を行った。  
 発展途上国への旅行を考えていたため、予防接種を打つことにした。A型肝炎、B型肝炎、破傷風、日本脳炎の予防接種を受けた。全て東大の保健センターで受けることもできたと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

トビタテで留学する際に必須となっていた付帯海学と学校から必須となっていたOSSMAの保険に加入した。付帯海学は10万円少し、OSSMAは3万円弱だった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部で面接があったことを除き、基本的にはない。単位交換の方法を質問しに行ったが、結局、帰ってきてから個別に審査するとのことだった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLiBT101点。行ってからでも間に合うと考えていたので、英語、中国語ともに全く準備しなかった。行き帰りの電車で英語や中国語のニュースを聞いていた。  
 シンガポールでは基本英語を話すことになり、話す力は何にせよ向上するので、日本では文章を読む力の向上を目指す方が良いと思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シンガポールは語学書が高いので、日本から持っていったほうが良いかもしれない。特に中国語教材は日本語のものを使うほうが共通の語彙が多く、学習しやすいと思う。  
 僕自身はトルコ語、ペルシア語などの語学教材を持参した。シンガポールでは売っておらず、(売っていてもとても高かったと思う)非常に助かった。  
 スーツは1着持ってきたほうが良いと思う。NUSで着ることはめったにないが、あるとキャリアフェアなどへ足を運ぶ際など何かと便利かもしれない。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)  
 ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
SE1101ESOUTHEAST ASIA A CHANGING REGION	4 MC		CH2243 CHINESE IN SOUTHEAST ASIA	4 MC	

SE2217WAR AND SOUTHEAST ASIA	4 MC		LAB1201 BAHASA INDONESIA 1	4 MC	
SE3211RELIGION, SOCIETY & POLITICS IN SE ASIA	4 MC		LAC3204 CHINESE FOR BUSINESS & SOCIAL SCIENCES	4 MC	
			SE2218 Changing Economic Landscape of Southeast Asia	4 MC	

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

NUSでの各授業は基本的にLectureとTutorialという少人数クラスから成る。NUSでの授業は学期中に何個か宿題やレポートがあり、最後に期末試験があるというスタイルである。そのため、宿題やレポートを終わらせるという形で、学習のペースを掴んでいた。

Bahasa Indonesia1の授業は日本のよく見る語学の授業と異なって、会話を非常に重視した授業だった。基本的に、NUSの授業は英語だが、Chinese Studiesの中には交換留学生に開講されていない中国語で行われる授業もある。授業は全て中国語で行われるので、中国語を上達させたい場合は検討するといいい。その場合、担当教員と別途話す必要がある。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

僕は1学期は3科目、2学期は4科目履修した。交換留学生は3つ以上5つ以下取ることになっている。Auditといって、聴講だけにすることも可能である。

授業では必読文献があるので、それを読むと1科目あたり週2時間くらいの学習時間になるだろう。

④学習・研究面でのアドバイス

英語での授業に慣れることがまず一番大事だと思う。。聞くだけでなく、Tutorialでは討論することも求められる。

また、交換留学生に渡される授業リストに載っていない科目というのものもある。例えば、Chinese Studiesの中国語で行われている授業などがその例である。学期初めにAppealをすれば、取れることもあるので、是非活用してみてください。僕の場合、2学期のCH2243とLAC3204はAppealして取った。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

最初の2ヶ月くらいは英語、中国語を使って簡単なことすらすぐに出てこず、かなりもどかしい思いをした。会話ができないと人と話す気力もなくなるので、なかなか辛い。そこで踏ん張って、人と意識的に積極的に話すようにするのが大切だと思う。

英語は1学期間かけて慣れ、学期末には大分話せるようになった。中国語は1学期の前半は教材を使って作文の練習を行った。2学期には中国語で授業をとった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Raffles Hallという交換留学生にしては珍しいHall暮らしであった。シングルルームを希望しましたが、ダブルルームが割り当てられた。

Hallを選んだ1つの理由は寮選択の段階で、僕以外の東大の友達ではなぜか誰もHallを選ばなかったことだったが、非常に良い選択だったと思っている。

NUSの寮には大きくHall、Utownの寮、PGPの3つあるが、Hallは中でも最も歴史があり、1学期間食事込みで1800ドルくらいと家賃も非常に安い。食事はミールプラン(必須)で朝夕付いている。

Hallはクラブ活動が盛んである。Hall Eventというイベントも度々開かれ、本科生との交流の機会となる。1階に住んでいると、遊んでいる声がうるさく響くこともあるかもしれない。

Raffles Hallは非常に交通の便のいいところにあり、特にEngineeringやFASSに所属する人にはお勧めである。ローカルの学生が多く、ローカルの友達を作りたい人にはお勧めである。緑豊かで、非常に暮らしていて落ち着く環境である。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)



<p>シンガポールは一年を通じて高温多湿である。しかし、室内は冷房がかかっていて寒いくらいである。毎年Hazeといって、インドネシアから森林を焼いたときの灰が飛んできて、大気汚染がひどくなる。去年は9月に始まり、11月くらいまでHazeの日が続いた。呼吸器系に疾患がある人は特に気を付けるべきである。交通機関はMRT、バス、タクシーなどあるが、日本に比べても安い。食事はHallで朝夕ご飯がついていたので、基本Hallのご飯を食べていた。昼ごはんは大学の食堂で食べていた。特に、FASSやEngineeringの食堂はとても安い。日本からの送金はJapan Net Bankのカードを使っていた。海外旅行の際にも現地でお金を引き出せるので、一枚持っておくと便利だと思う。基本的に大学の中で生活はほとんど事足りるので、大学から意識的に出ようとしないと大学の中にずっといることになると思う。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> <p>シンガポールの治安はとてもいい。シンガポールから出て旅行に行く際には安全に注意する必要が出てくる。大学の保健センターはキャンパス内の便利な場所にある。シンガポールには日本語が通じる病院もたくさんあるので、そちらに行ってもいいと思う。付帯海学の保険で全額カバーできる医療機関もある。屋内の冷房が厳しいので、風邪をひくのには気をつけるべきである。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p> <p>・毎月の生活費とその内訳</p> <p>6万円(家賃3万円、食費2.5万円、雑費・書籍費5000円)</p> <p>・留学に要した費用総額とその内訳</p> <p>90万円(航空券10万円、家賃30万円、食費25万円、携帯4万円、交通費2万円、予防接種・検査費4万円、保険13万円、雑費2万円)</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p> <p>「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」から奨学金を毎月20万円頂いていた。毎月登録した口座に振込まれる。友人からの紹介でプログラムを知った。2期の時には、書類選考、面接、結果通知という順で奨学生が決定される。事前研修や事後研修という研修制度がある。特に事前研修は留学前に留学に行く準備を心の上でさせてくれた。なお、事前研修と事後研修はともに参加必須となっている。 <a href="http://www.tobitate.mext.go.jp/program/index.html">http://www.tobitate.mext.go.jp/program/index.html</a></p>
<p>⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)</p> <p>1学期にはホールで卓球をしていた他に、NUSでけん玉クラブを創設して、週に1回活動していた。 <a href="https://www.facebook.com/Kendama.Club.En/">https://www.facebook.com/Kendama.Club.En/</a> 週1回の練習の他に、日本文化のイベントに参加したり、シンガポールのイベントに呼ばれて出演したりした。4月30日には公益社団法人日本けん玉協会の方をお呼びして、けん玉イベントKendama Fest! Japan X SGを主催した。</p> <p>12月にはマザーテレサのボランティア活動に参加した。</p> <p>NUSでは学期の間の休みの他に、学期の真ん中にRecess Weekという1週間程度の休みがある。長期休暇は基本的に、東南アジアをバックパック旅行をしていた。航空券が安いので、色々な国に行くことができた。</p>
<p><b>派遣先大学の環境について</b></p>
<p>①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)</p> <p>留学生へのサポートは充実している様に思う。例えば、期末テストの際には許可を願えば、辞書を持ち込んでも良い。学期初めは留学生向けのイベントも多いので、友達も多くでき、NUSの生活にも慣れやすいだろう。ただ、留学が始まるまでの手続きは少し遅い気がする。正式な留学の決定や寮の決定は遅かったように思う。</p>
<p>②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)</p>

学習環境としては、非常に良いと思う。キャンパスには無料のシャトルバスが走っている。図書館は勉強スペースがたくさんあり、テスト前には多くの学生が勉強している。Utownにはジムやプールが併設され、学生生活に配慮がなされている。Utownの芝生で、フリスビーをすることもあった。大学内では基本的に無料のwifiが使える。Raffles Hallの部屋では有線でインターネットにつなぐことができる。大学の食堂はメインとなるKent Ridgeキャンパスだけでも数個あるが、非常に料理のバリエーションが多くて、かなり安く様々な料理を味わえる。しかも美味しい。英語の図書館と中国語の図書館がある。中国語の図書館には日本語の蔵書も少しある。

### 留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

1年卒業を伸ばすことにしたので、特に問題なかった。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

シンガポールでも説明会やキャリアフェアがあるので、行くといいかもしれない。僕自身、1度会社に訪問させてもらい、2度キャリアフェアに足を運んだ。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

( )1.研究職 ( )2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) ( )3.公的機関(機関名: )  
 ( )4.非営利団体(団体名又は分野: ) ( )5.民間企業(企業名又は業界: )  
 ( )6.起業(分野: ) ( )7.その他( )

### 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語、中国語留学を通じて、英語と中国語の会話力が非常に伸びたのは留学の大きな成果と言える。けん玉のイベントに出たときに、ステージで英語をある程度きちんと話せたのは英語に対する自信も増した。ルームメイトがたまたま台湾人で、友達にも中国語を話す人が多く、中国語の会話力が伸びたのは非常に満足いくものだった。中国語で行われる授業もとれ、中国語でレポートも書いたので、作文能力も伸びた。

-多民族

多民族社会に暮らすことがどういうことかを何となく感じる事ができた。

-中国の影響

台湾、香港、シンガポール、マレーシアなど中華系の友達が多く出来たが、同じ中華系の人から見た中国の印象について知ることができた。

-けん玉

大学ではけん玉クラブを作って週に1度活動していた。このけん玉の活動で非常に有意義な経験をすることができた。けん玉を通じて大学外の人とも多く知り合うことができた。けん玉の活動を通じて、日本文化性や日本文化の伝達について、考えることができた。

②留学後の予定

4年生の夏学期は授業を休むことにしたので、その間旅行に行き、ゆっくりと過ごす予定でいる。

**③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

留学に行くこと自体に浮き浮きする人もいると思う。それが当然であると思うが、心を落ち着けて、しっかり準備することが大事だと実感している。今回の留学の大きなハイライトとなるけん玉クラブだが、クラブの創設は留学前の3月に既に決めていたことだった。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

先輩の書いた交換留学の報告書

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**

メールにて添付する

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 7月 10日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シンガポール国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
( ) 1.研究職 ( ) 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ( ) 3.公務員 ( ) 4.非営利団体 ( <input checked="" type="checkbox"/> ) 5.民間企業(業界: ) ( ) 6.起業 ( ) 7.その他( )			

<b>派遣先大学の概要</b>					
シンガポール国立大学はシンガポールの総合大学で、世界ランキングにおいてアジアで最も高い評価を受けている。東南アジア諸国、中国、欧米やアフリカ等を含め100カ国以上からの留学生を迎え、非常に国際色豊かな大学である。学部は11ある。					
<b>留学した動機</b>					
英語学習。視野を広げる。国際経験。などなど					
<b>留学の時期など</b>					
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	8月～		2016年	5月
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部5	年生の	4月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			56	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			24 単位	
	留学後の取得(予定)単位			30 単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学		2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
留学申請は1年前から始まるため、また全額交換留学の制度上3年もしくは4年での留学となる。4年生で留学に行く場合は、就職の関係上1学期分しか留学できないが、僕は2学期間留学したかったため、3年生で留学をした。					

<b>留学の準備</b>
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
学内選考を通ればあとはNUSからの指示通りに動けば大丈夫です。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザの手続きは現地です。これもNUSからの指示があるのでそれに従えば大丈夫です。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
東大での健康診断、ワクチン接種が必要です。常備薬等はあれば必要ですが、基本は現地で同じものが買えます。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
東大で強制(?)加入させられる保険に入りました。提携医療機関が少なく、学校からも遠く、手続きが煩雑でいいことはありませんでした。10ヶ月の海外留学で10万円が安いと思うならおすすめです。
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
経済学部の担当者の方が指導して下さいます。それに従えば大丈夫です。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
スピーキング力は必要だと思います。リスニングに関しては、シングリッシュがあまりに異様な発音であるため、事前のリスニング力の高さにかかわらず、現地に来て慣らしていくという作業が必要になります。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ほとんどすべての日本製品が現地で買えます。

学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Economic Dimension of Singapore	4	●	International Finance	4	●
Politics and Government of Singapore	4	●	Economics and Psychology	4	●
Economic History of India	4	●			
Chinese Language 1	4				
Financial Economics	4	●			
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
授業は大人数講義、予習は毎週のリーディング課題、復習は毎週のチュートリアル用の課題。とにかく課題量がおおかったです。					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
1学期3～4科目が普通。5科目取るとかなりきつくなり、学期中の旅行などはできなくなる。普段は毎日3時間くらいの自習をしていました。大きな課題が出ると、きつくなります。					
④学習・研究面でのアドバイス					
正規学生は競争を意識しているのであまり有益なアドバイスをくれることは少ないです。毎回の授業でしっかり吸収し、あとはチュートリアルへの準備を通して理解を深めていくことになると思います。					
⑤語学面での苦勞・アドバイス等					
リーディングの量がとても多かった。					
生活について					
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)					
Residential College 4。とても良かった。エアコン必須。					
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)					
四季がない。10月頃はヘイズがひどいのでマスクが絶対に必要です。DBSの銀行口座を現地で開きました。VISAよりMASTERの方が普及しています。(特にタクシー)					

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良い。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
ほとんど使っていない。寮費が5万円、寮に付いてくる学食が1万5千円。
・留学に要した費用総額とその内訳
分からない
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
旅行。ジム通い。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
特になし。留学生向けの交流パーティが学期初めにあるくらい。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
とても良い。使いやすく、近く、設備も揃っている。ただエアコンが効きすぎて寒い。
<b>留学と就職活動について</b>
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
東大や日本で一般的な価値観に縛られず就職先を考えられるようになった。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
インターンを試みる。現地で働く東大OBを訪問してみる。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
( )1.研究職 ( )2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) ( )3.公的機関(機関名: ) ( )4.非営利団体(団体名又は分野: ) ( )5.民間企業(企業名又は業界: ) ( )6.起業(分野: ) ( )7.その他( )

<b>留学を振り返って</b>
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
視野が広がる。
②留学後の予定
卒業。就活。
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
留学決断には大きな不安が伴ったり、周囲から横槍が入ることもあるかもしれません。しかし、留学はとても楽しく、とてもためになると思います。人生の幅が広がるような選択をして欲しいです。
<b>その他</b>
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Japanese Global Scholars 東大生留学日記
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。